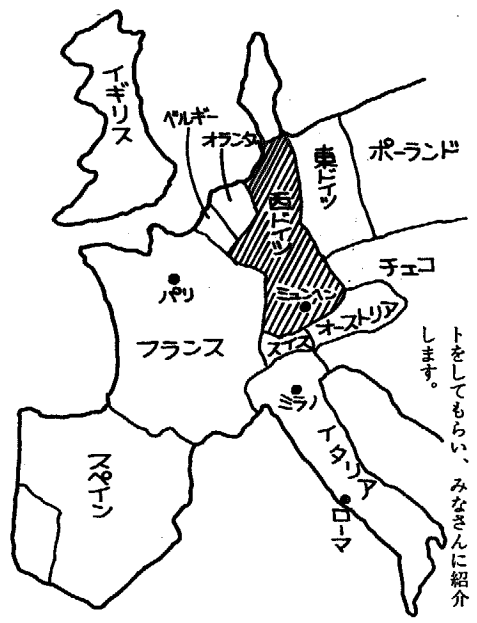


# ヨーロッパ

## 農業視察

新潟県では、昭和五十二年から毎年、県内の青年農業士をヨーロッパへ農業視察のため、派遣しています。

昨年、本町から小平方の白井法夫さん(三十一歳)が選ばれました。白井さんをはじめとする農業視察団(十七名)は、十月三十一日に日本を発ち、十一月十七日に帰国。十八日間に、オランダ、西ド



イツ、イタリア(ミラノ、ローマ)フランス(パリ)の各地を訪ね見聞を広めました。白井さんは、西ドイツのミュンヘン郊外の農家で一週間、実際に生活を共にし、大いに得るものがあったということです。

今号は、白井さんにそのレポートをしてもらい、みなさんに紹介します。

### 「誇りと情熱に満ちたドイツ農民」

白井 法夫 (青年農業士)

私は、ぜひ、短期間でもよいから海外に行きたいという希望を持っていた。このたび、第五回新潟県青年農業士海外視察研修団の一員として、オランダ、西ドイツ、イタリア、フランスを訪問できたことはほんとうに嬉しかった。

特にドイツの農家でのホームステイ(家庭滞在)は数々の体験を私に与え、生涯忘れえぬすばらしい思い出を作ることができた。十一月五日の夕方、ホテルのロビーで私のホストであるストローブル夫妻と花束を持った娘さんに迎えられる。私の第一声「ビイーゲツツイーネン」はじまると、不正確な発音をひきつった笑顔と力いっばいの握手でカパーしつつ……それが始まりだった。

家族と農場  
私のホスト、ファームは、(ス



▲ストローブル家のみなさんと白井さん(いちばん手前)

トロープル家)ミュンヘンの北西十二キロにある都市近郊型農家である。家族は六人でエドムンド、ストローブルさん(五十五歳)を筆頭に奥さんのリナさん、息子のエドムンド、嫁のセルビア、そしてスベリテイとマーチンの二人の

子供がいる。また、年間雇用の女性が一。この七人が一つの建物に住んでいる。ただ、家は半分に仕切られて玄関は二つあって老夫婦と若夫婦は別である。

農場は約四ヘクタール。十数種の露路野菜とハウスには軟弱野菜を栽培している。

一日の生活と農作業  
市場のある日(週三日)は朝五時起床である。軽い食事後、市場へ行く。九時半ごろ遅い朝食があつて、夕方六時半ぐらまで働く。市場のない日は六時に起床である。

これから寒く厳しい冬を迎えるミュンヘンの朝方の気温はマイナス三度。積雪四センチの日もあつた。市場へは一日八百から千個の野菜スーアの素を作り、卸している。スーアの素とは、セロリ、ニンジン、ネギを十センチほどに切つてひもで結んだものである。農作業は野菜の収穫と冬開いであつた。

この農場の粗収入は二千万円で、このうち七五パーセントが生産費であるという。税金は収入に対し百五万円、住宅に対し十六万円。これを聞いて、あまりにも歩留りが低いと思つた。

私の一週間の滞在中、十二時前に寝たのは一日だけ。というのは毎日、色々な所に連れて行つてもらつたからで、おかげで寝不足気味であつた。これでは体がもたない、と、とにかく食べまくつた。そ

の結果、一週間で体重が二キロ増え、体臭も変化していくのを感じた。乳製品のカロリーの高さを身をもって体験したわけである。

充実した日々  
父、息子ともに消防団員である。ドイツでは、十八歳になると十年間以上の非常勤の消防団が、十五カ月の兵役に就かねばならない。消防体制は日本とは比較にならないほど優れていて、ストローブルさんも誇りに満ちていた。

ある日、作業中に息子のエドムンドさんが足に釘をさしてしまつた。私は、金づちで傷口を強打し、持っていたオロナインを塗って、マツチで火をつけ消毒してあげ、「これが、ジャバニーズ・スタイル」だと得意気に言つたものだ。

研修を振り返って  
私のホスト農家は、ドイツでは小農であり、経済的に豊かだとは感じなかつた。しかし、そんなことよりも、私という見ず知らずの日本人を誠心誠意歓迎してくれ、色々なことを体験させてくれた。ストローブル家は都市近郊のメリットを生かし、家族四人、力を合わせて農業に打ち込んでいた。言葉が多少通じなくとも、心は通じるものであつた。人間同士の出会いは不思議さを今ほど感じたことはなかつた。「あなたは、我々の家族だ。今度は奥さんと米をさい」とたぐさのおみやげを手渡しながら言つてくれた。ストロー

ブル家のみなさん、ほんとうにありがとう。

追 伸  
このレポートを書いている時、ドイツのファミリーから電話があつた。私から礼状と写真が届いたとのこと。約三分間であつたが、家族がかかるがわる電話に出られた。ドイツ人の心の温かさ、思いやりを痛感させられた。

### インタビュー

外国旅行といいますが、言葉がやはり問題になると思つてますが、大丈夫でしたか?  
白井「旅行の前に、八月から語学研修(ドイツ語)を受けたんですが、まあ、はっきり言つて自信ありませんでした。実際、ドイツでは英語しか使いませんでした。」

英語は話せるのですか?  
白井「ほんの片言だけで。でも、言葉よりも情熱ですよ。俺は日本からはるばるやつてきて、あなた方の農業を学びたいんだっていう気持ちでぶつかりました。」

現地で実際に農業を体験された感じは、どうですか?  
白井「一つは、ミュンヘン郊外という立地条件を生かしていること。つまり、市場に自分の店があるんです。もう一つは、実によく働ら

### How are you ....

#### と国際電話が

き、よく食べるということですが、日本の農業と違う点など? 白井「国が違えば、違うのは当然ですが、国が違つても同じものがあります。それは、気持ちです。ドイツの農民はひじょうに誇りを持っています。それは農民だけがでなく国民全体がそうなんです。私たちが日本人には誇りが欠けているんじゃないかと思ひましたね。」

白井さんが考える日本農業は、  
白井「十年前、私は将来離農する人が増えて、借地によって大規模経営が可能だと思つていました。ところが現在、借地するにしてもうまくいきません。また減反など

もあつて将来は必ずしも明るいとは思いません。それに対抗するには、生産コストを下げ、保守的な考え方を改めなければならぬと思ひます。それから日本の農業は過保護と言われますが、ヨーロッパの方が政府の補助は厚いんですよ。」

ところで、先日、電話があつたとか。  
白井「はい。嬉しかったですよ。数千キロ離れていますが、これからもストローブル家とは交流していきたいですね。」



▶ミュンヘンで、お礼のパーティ。ゆかた姿でドイツ民謡を歌っているところ。

### トビックス

#### 一年の計はマラソンにあり

今年で9回目を迎えた元旦マラソンは、約350人を集めて、盛大に行われました。1月1日は朝から、みぞれ混じりの天候でしたが、スタートのごう音とともに天気も回復し、コンディションとしてはまずまず。そして、先頭をきつて走つたのは浅妻町長。子供からお年寄りまで全員無事完走し、記念の福引きをしていました。この福引きもカラーボックスなどハズレなしということで大好評。さあ、今年も始まりましました。マラソンのようにゴールめざしてがんばりましょう。



542 2 02-599 2